

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： **大学院医歯薬学総合研究科(医学系)
医療教育統合開発センター**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 教育に関しては、医療系(医学部、医歯薬学総合研究科、病院、医療教育統合開発センター)は一体となり、セクターを超えて多様なニーズに対応できる医療人育成のキャリアパスを実践することで、教育課題の実現を図る。 特に、医療教育統合開発センターを中心にシミュレーション教育の充実を図り、医療系教育の有機的・機能的な協力体制を進めることで、教育機器等の効果的な利用を促進させて医療機能の充実を図る。 すべての大学院コースにおいて定員の充足を目指す。	・平成27年度大学院入学定員は充足した。(博士課程:定員128名のところ、151名、修士課程:定員20名のところ、29名の入学手続きが完了している。) ・中学生の職場体験、高大連携、医学部の臨床実技入門、シミュレーション実習、復職支援、ジェネラリストスキルアップセミナーなど、それぞれの段階におけるニーズに対応したコースが行われている。 ・保健学科や大学病院看護部でのシミュレーション実習、薬剤師を対象としたシミュレーション実習(Pharma sim)など多様なニーズに対応した実習を行っている。 ・シミュレーションワーキンググループを開催し情報交換を行うことで教育機器などの効果的な利用を促進させた。シミュレーションセンターのシミュレーターの利用実績を収集し、効果的な利用促進を図った。 ・医療教育統合開発センターのシミュレーターの利用実績をHP(http://www.okayama-u.ac.jp/user/cdmhe/pub019/src/simuse.html)に掲載し公表しているが、広報機能の更なる充実が今後のセンターの課題である。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
・新入大学院生数および分子イメージングコース学生評価(学年進行中)。 ・医療教育統合開発センターの活動実績に係る数値(例えば年間の教育機器利用数など)	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 地域産学官共同研究拠点整備事業おかやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)の運営を着実に進展させ、産学官連携の分子イメージングに基づいた研究を推進する。 さらに研究者間情報交換の機会を広げるとともに、大型科研費及び外部資金の獲得のための研究開発委員会ヘッド会議を毎月開催し、資金獲得増を目指す。 他の医療系(保健学研究科・環境生命科学研究科など)との研究交流をさらに活発化させ、医療工学系の枠組み作りにより主体的に取り組み、新たな研究シーズ開発について検討を加え、その臨床応用に向けての取り組みを展開する。	・科学研究費補助金の獲得状況については、平成26年度は前年度と比べて件数は若干の低下が見られるが、獲得金額は増加し、最近の5年間では最高額となっている。また、寄付金、共同研究、受託研究の受入状況については、前年度と比べて件数、金額とも若干の低下が見られるが、全体の金額としてはほぼ前年度と同水準を維持している。 ・分子イメージングに係る研究数は年間40件を数え、入居企業数も増加している。 ・医師主導臨床試験は、平成26年度中に6件が開始されている。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
・分子イメージング研究の医療系での実施数(入居件数、研究科・保健学研究科・病院での研究論文数の合算)。 ・科研費及び外部資金獲得額(研究科)。 ・研究シーズとして検討した数と臨床応用に向けた取り組み数。	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 岡山県地域医療再生計画をさらに推進し、地域医療人育成センターおかやま(Muscat Cube)と共同して、地域医療人育成事業を継続して行うとともに、地域枠学生の初期研修の開始と女性医師等の復職支援等の事業のさらなる充実を図る。 学部、病院とも連携して、岡山市との医療連携をさらに充実・発展させる。	・岡山県地域医療再生計画(第二次)に基づき、地域医療を担う人材の育成に積極的に取り組んでいる。具体的には平成24年2月に発足した地域医療支援センターと協働し、地域枠学生の卒業キャリアパスの構築を進め地域医療を担う医師を地域で育てるためのワークショップの開催などキャリアパス構築のための方策を進めている。8月には3回目となる地域枠学生と自治医科大学学生の合同セミナーの開催などの取り組みを行った。また、学生教育に関しては、24年度3月より3-4年生の地域医療体験実習の必修化に引き続き26年度には200名あまりが必修の地域医療実習を行ったが、これまで構築してきた地域医療機関との連携を生かして十分な実習を行うことができた。 ・女性医師等の復職支援事業は順調に成果を上げており、平成26年度の大学病院への新規復職者7名、地域医療機関への新規復職者は2名であり、平成20年度からのトータルは大学病院への復職107名(医員:96名、レジデント:9名、研修登録医:2名)、地域への復職42名(地域医療機関へ直接復職:16名、支援制度利用終了直後に地域医療機関へ復職:27名)である。地域医療人育成事業の企画件数:地域医療実践セミナー1回、復職のためのシミュレーショントレーニング:7回、女性医師対象勉強会:11回、キャリア支援フォーラム:1回、各種講演会(介護、次世代育成):6回、医師・医学生交流会1回(メンバー・メンティ)。 ・「岡山大学と岡山市との保健医療連携に関する協定」により、平成26年4月より連携大学院「実践総合診療学講座」が開設された。この連携講座では総合診療・地域医療・プライマリケアを担う岡山市立市民病院の特性を活かした臨床を基盤に、岡山大学で研究を展開する。岡山市の援助のもとで大学院生が市民病院と大学両者で多様な実践臨床の現場を経験し、総合医療教育をスムーズな形で実践するとともに、岡山から新たな臨床エビデンスの提供を行うことを目指す。平成26年4月から連携大学院生1名が入学し、市民病院での客員教授のもとで、大学での講義・演習に加えて、新たに市民病院での実践臨床断学レクチャーが開始された。平成27年4月からは、新たに1名入学予定である。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
・地域医療人育成事業による育成初期研修医数 ・復職医師数 ・岡山市立市民病院との連携大学院事業への参加医師数	
【総括記述欄】	
平成26年度の組織目標はほぼすべて達成できた。特に研究領域では分子イメージング研究などで予定を上回っている。さらに医師主導臨床試験についても順調に施行されている。全体的にグローバル化に対応した取り組みが不十分であり、次年度以降に英語教育の充実などの改善を図る予定である。	